鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

第48号　H22．1．29

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴信

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目1番1号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

2月の行事予定

2　月			
1	月	全校朝会	
2	火		
3	水	第2回学校保健委員会	
4	木		
5	金	職員研修	
6	(土)	2年進研プロシード	
7	(日)		
8	月	学年朝会 校内弁論・学年審査	
9	火	推薦入試	
10	水	学校安全の日	
11	(木)	建国記念の日	
12	金	第9回職員会議	
13	(土)	悠学講座⑪	
14	(日)		
15	月	全校朝会　校内弁論大会 第3回学校関係者評価委員会	教員相互授業参観週間
16	火	学年末考査時間割発表	
17	水		
18	木	第10回職員会議	
19	金	3年特別授業終了	
20	(土)		
21	(日)	第3回英検二次試験	
22	月	学年朝会 2年進路講演会	
23	火	**学年末考査（1日目）**	
24	水	**学年末考査（2日目）** ICT研修	
25	木	**学年末考査（3日目）** 国公立大学前期日程試験(2/25～)	
26	金	**学年末考査（4日目）** 1年進路講演会	
27	(土)	1年スタディサポート	
28	(日)		

克己

教頭　前田　光久

携帯電話が日常生活の中に当たり前のツールとして入り込んで久しい。電話であるのでもちろんそれまでの固定電話と同じように距離の離れた者同士がリアルタイムで会話をする機能がメインであるのだろうが、それ以上にそのメール機能は、他者との距離をずいぶん縮めることになった。

確かな数字は忘れたが、明治以来今日ほど日本人が書き言葉で情報を発信する時代はないと言われている。複雑化する現代社会の中で、他者との繋がりがある意味疎遠になりがちな今日、我々人間はどこかで誰かと「繋がっている」という証を実感としてもちたいからだという理由もうなずける話である。

メールであるからには、従来の手紙と同様、発信者に対する返事がすぐに返ってこなくても、それはそれで当然と思えるのだが、そこは携帯電話というツールの特性からして返信を待ちきれない場合もあるらしい。逆に受け手の側からすれば、どんなに多忙であるとしてもわずかの時間で返信できるのだからすぐに返信しなければ相手に不快感を与えてしまうのではと焦燥の念に駆られてしまったりもするようである。

便利さに振り回されて逆に自分を縛っているとしたらこれほど残念なことはない。物事に即応することはそんなに心地よく、しかるべき姿なのかと疑ってみたくもなる。便利さを否定するつもりなど毛頭ないが、電子メールや携帯電話がなかった時代の他者との距離感が懐かしくさえ思える。

誰かと繋がっていたいという気持ちがこれほどまでにあからさまになる時代とは、裏を返せばそれだけ自分自身を確かな存在として実感しづらい時代とも言えるのだろう。若い世代ならなおさらのことであるかもしれない。

ところで、受験は団体戦であるという。不安と緊張の連続する毎日を目標に向かって邁進しなければならない時、同じような立場の仲間と共に必死になってゴールを目指すのである。あとわずかで離れればなれになる友が、今自分の傍らで奮戦している。その姿が自分自身を奮い立たせ、集中力をかき立てる。そしてそれが周囲への驀進の連鎖となり、一つの集団が個々人の力だけでは達し得ない突破力を生み出すのである。

しかし考えてみると、試験本番で友と協力して回答することは不可能だし、受験生二人がセットで合格できるわけでもない。当たり前のことであるが、受験は個人戦でもある。

昼間、学校で決められた演習計画に沿いながら取り組むことは当然できる。が、夜、机に向かって一人黙々と問題に立ち向かうその時間こそが、勝負だと思う。受験の季節は真冬である。あえてその寒さに逆らわず、ひんやりとした空気の中に身を置いて、かじかむ手指に息を吹きかけながら鉛筆をすり減らしていく時間。家族が床についても、一人投げ出したくなるような難問に立ち向かい、眠い目を擦りながらもう一問、またもう一問。まさに一心不乱に前のめりで格闘する時間。なぜこんなに苦しくて辛い思いをしなければいけないのかなどと泣き言をつぶやいても誰も手を貸す者などいない。貴方のメール相手は手を貸してはくれないのだ。でもそれが受験勉強なのであり、そしてそれは幸せなことでもある。こんなにも無心にがっぷり四つでぶちあたる相手など、人生の中でそう多くはないのだから。

今、まさにその試練のまっただ中にいる諸君は、人生の中でこんなにも自分自身の力で必死になって突き進む瞬間を否応なしに味わっている。大げさな言い方かも知れないが、これまでの十数年間の己の全てが試されている。もがき苦しんでほっぽり出したくなって楽な道へ逃げたくなる。早々と出口を見つけた者を恨めしく思ってしまうことさえある。大声で叫んだり、無性に駆け出したり、息抜きも必要だとばかりに快楽の中にどっぷりと浸かりたくなることもある。しかし、常に頭の中には、自分でやらねばどうしようもないことなのだとの思いが厳然としてこびりついている。

他人は騙せても自分に嘘はつけない。自分自身の有り様は自分が一番よくわかっているのだ。苦しい自分に必死になって向き合い、とことん自分を追い込んで欲しい。そして受験の日は、渾身の力でもって答案を書き上げ、全てを出し尽くした満足感を胸に会場をあとにして欲しい。そして、晴れ晴れとした心持ちで帰って来て欲しい。

そしてそれからである。「全力を尽くしました」と誰かに告げればいいのである。それはもちろんメールであっても良いのであるが、それまでとことん自分を追い込んだ諸君ならば、きっと誰かに面と向かい報告したくなるのだと思う。それまであとわずか。ゴールは近い。

センター試験激励会

12月21日（月）、全校朝会に先立って、応援団をはじめとした一・二年生による三年生センター試験激励会が行われた。

応援団は、この日のために二週間という限られた時間の中で練習を重ね、素晴らしい演舞を披露してくれた。

センター試験終了

1月16日・17日の両日、鹿児島大学などで大学入試センター試験が実施された。あらかじめ受験を予定していた三年生全員が、大きな混乱もなく無事に受験を終えることができた。

今回は二年生の応援団団長である池田夏一君に、あらためて三年生へメッセージを書いてもらった。

三年生へ

応援団団長　池田夏一

センター試験も終えて、いよいよ二次試験対策が始まったからでありましょうか。先輩方一人一人が覇気に満ち溢れているように思います。近頃ではすれ違うだけで背筋がぴんと伸びるような感覚さえ覚えます。

つい先日、JR通学の私は早起きしたついでに始発列車に乗って登校しました。その時も鶴丸高校の三年生が何人か乗っていて、朝早くの非常に眠たい時間であり、また、揺れる車内であるにも関わらず、必死に勉強する姿を見たときはとても驚きました。そして、先輩方の受験に対する思いの強さを改めて感じました。大学入試は、ご存じの通り、三年前の高校入試とは比べものにならない全国レベルの争いになります。チーム鶴丸として一致団結してこの冬を乗り越えてください。

私の好きな言葉に「あすなろ」という言葉があります。言葉といったら語弊があるかもしれませんが。「あすなろ」というのは、ヒノキ科の植物で、檜とよく似ていますが材質的に檜より劣っているため、「明日は檜になろう」といつも思っている植物だと言われています。もしかしたら、先輩方も今はまだ「あすなろ」なのかもしれません。しかしこの冬、シビアでストイックな生活を送り辛い勉強にも耐え抜いた先輩方は、春にはきっと檜になっていることだと思います。私たち一・二年生は先輩方の背中をずっと見ています。最後までがんばってください。

郷土を知る学習

英語科　有川　博人

十年前に沖縄の読谷村を訪れた時のことだ。この村は琉球焼窯元が集まっていることで有名だ。人里離れた山の中の小さな小屋で、ひとりでシーサー作りに取り組んでいる若者に出会った。シーサーは「獅子」を沖縄方言で発音したものだ。災いをもたらす悪霊を追い払う魔除けとして、家の門や屋根の上に置かれる。

彼は大阪出身で、学生の時に琉球焼に魅せられて移住して来たのだそうだ。その頃はまだ未熟で、なかなかうまくできないと言っていたが、シーサーの顔がとても表情豊かだったので、頑張ってほしいと思ったし、いつかこの人の作品を手に入れたいと思った。実は、それが最近かなったのだ。そのユーモラスな姿が、我が家の中庭で今存在感を示している。最近、彼は有名な作家になっているという。

人はさまざまなきっかけで、その後の人生を決める。12月18日の一年生の恒例の「郷土を知る学習」は、もしかしたら、そんな機会になったかもしれない。たとえば、工業試験所では、鹿児島の特産物を生かした、いろいろな「もの作り」について知ることができた。龍門司焼の窯元では、約四百年前の慶長の役の朝鮮出兵の時、島津義弘が連れ帰った陶工たちによって、今日の礎が築かれたという歴史を知ることができた。実際にろくろを回し、器作りを体験した生徒たちの中には、ひょっとしたら将来、陶工を目指す人もいるかもしれない。ともあれ、とても夢のある「郷土を知る学習」の旅だった。

また、空は高く青く澄んで、遠く霧島連山の主峰高千穂が冠雪し、美しい景色を堪能することもできた。ただ、折しも寒波の襲来で、その寒さは半端ではなく、後日風邪で学校を休んだ人もいると聞く。そのこともまた、高校時代のよき思い出になるだろう。

うがい・手洗いを

鹿児島県に、感染性胃腸炎の流行警報が発令されました。うがい・手洗いの励行により各自予防に努めましょう。また吐物からも感染するので適切な処理を行いましょう。